

水道局だより

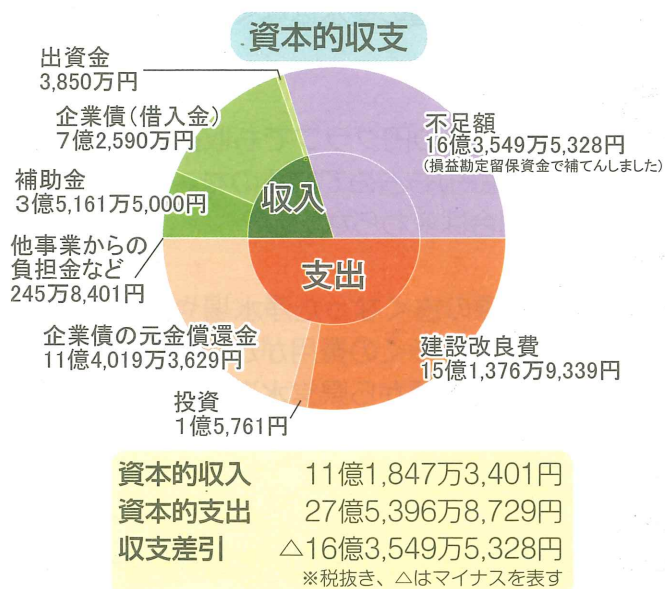
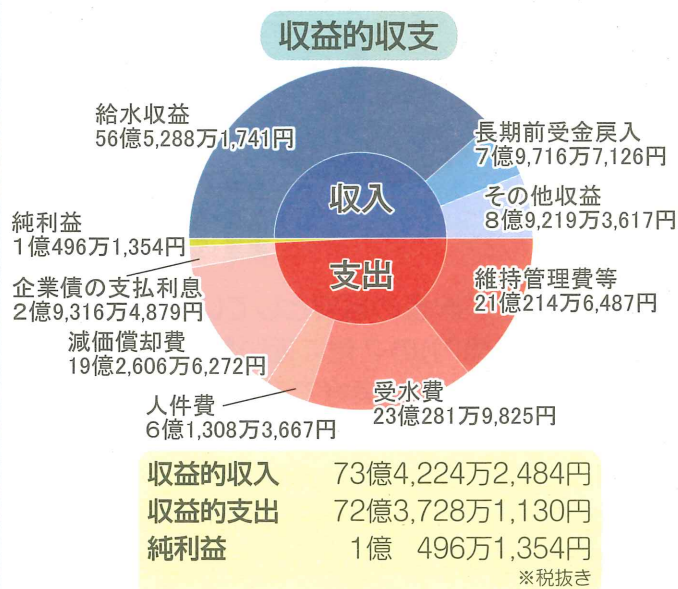
私たちの暮らしの中の水道 vol.6

令和元年11月1日発行
水道局

☎237-5811 FAX237-5819

身近にある水道について知っていただくために、水道事業の現状・課題・経営状況をシリーズでお伝えしています。今回は、平成30年度決算状況を見ていきます。

平成30年度決算を見てみよう！



- 収益的収支(グラフ左)
その年度の水道水の提供に必要な費用と、収入(主に水道料金)
- 資本的収支(グラフ右)
水道を将来にわたって維持するために必要な施設の整備や拡充などに係る費用と、それを行うための財源となる収入(補助金や借入金)

給水人口 27万6,961人
給水戸数 13万4,754戸
年間総配水量 4,035万4,893m³
1日平均配水量 11万561m³
1日最大配水量 12万2,072m³
(平成31年3月31日時点)

上のグラフからたくさんのお金が使われていることが分かるね！でも、経営が厳しくなると以前から聞いているけど、収益的収支(グラフ左)では利益が出ているよ。

平成30年度は、1億円の利益が出ているけど、過去にもらった補助金などを毎年少しずつ収益化している、実際の現金収入でない長期前受金戻入の8億円が含まれているから、利益が出ている訳ではないんだよ。

資本的収支(グラフ右)では16億円も不足しているけど、何から支払われているの？

将来、施設を新しくするために備えた貯金が53億円あって、そこから支払ったんだよ。でも、今年は収益的収支の減価償却費や長期前受金戻入などの会計上の処理を行って、15億円は戻すことができたんだよ。下の計算式を見てみて！

平成30年度は貯金が1億円減ったんだね。

そうだね。丈夫な水道を保ち続けるために、水道管や浄水場などの更新や耐震化は、今まで以上に力を入れていくことが重要だけど、その分貯金は減っていくことになるんだ。

水道局の貯金の動き


これまでの貯金 53億円 - 平成30年度の不足 16億円 + 平成30年度の貯金 15億円 = 貯金残高 52億円


平成30年度
に減った貯金
1億円


水道事業の運営費用は、
皆さんからの
水道料金で賄っています！




大きな影響を持つ県営水道


 収益的収支の支出で、受水費(県営水道)の割合が大きいけど、津市の水源はどうなっているの？

 津市の水源は、右のグラフのように県営水道が全配水量の51%を占めているよ。自己水源が枯渇している場所も出てきているので、安定供給のために県営水道の受水はなくてはならないんだよ。

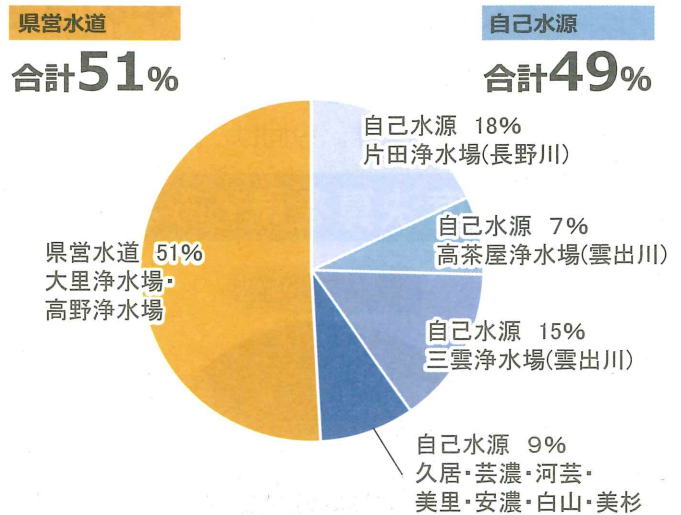
 だから決算の円グラフでも収益的支出で3分の1(約23億円)も占めているのね。これから県営水道の割合は変わらないの？

 自己水源の古くなった浄水場や配水池を新しくするには、多くの費用がかかるので、地域によっては自己水源から県営水道へ切り替えていくよ。だから県営水道の割合も増加していくんだよ。

 ますます受水量が増え、支払いも多くなるね。少しでも安くないのかなあ。

 県営水道を経営しているのは三重県企業庁なんだ。企業庁は平成29年度決算で、一般会計への貸し付けも含め約156億円の貯金があるよ。この


水系別供給状況(平成30年度決算)




額は、企業庁が貯金の目安としている一年間の営業収益(約80億円)の2倍に近いね。これから見ても、県営水道の経営は良好で安定しているよね。この貯金は端的に言うと、県民・市民が負担した水道料金によるものなんだ。今年は5年に一度の料金単価の見直しが行われるから、津市は三重県に対し料金単価を低減するよう要望*しているよ。


*料金負担を少しでも軽減できるよう県営水道料金単価の低減について、8月7日の「令和元年度県と市町の地域づくり連携・協働協議会1対1対談」で市長から直接知事に要望を行いました。

停電への備え

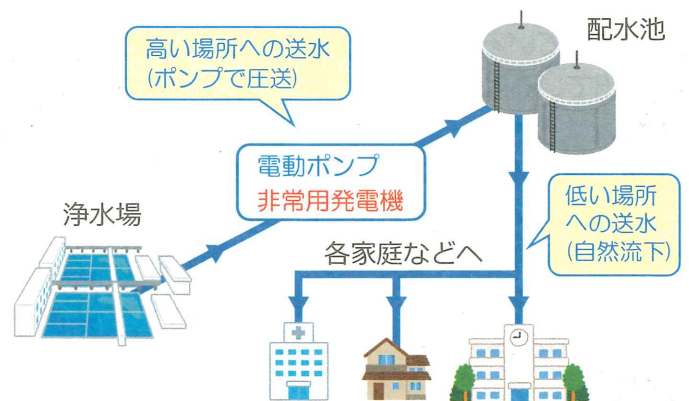
 地震や台風で停電がおり、長時間、広範囲に断水して困っている映像をよく目にするけど、なぜ停電で断水になるの？

 場所によっては、低い所からポンプを使って高い所へ送水しているから、停電になるとこのポンプが止まって断水になることがあるんだ。

平成30年の台風時に長時間の停電を経験した中で、右下のような取り組みを進めたよ。

 停電時の断水は防ぐように考えてもらうけど、災害の対策はそれだけじゃないよね。

 次回は、老朽管路などの更新に加え、災害に強い施設への取り組みについて見ていこう。



令和元年度の取り組み

- 非常用発電設備の設置 (広範囲に影響を及ぼす配水池へ)
- 早期に対応できるよう可搬式発電機の購入
- 電力を必要としない配水への切り替え